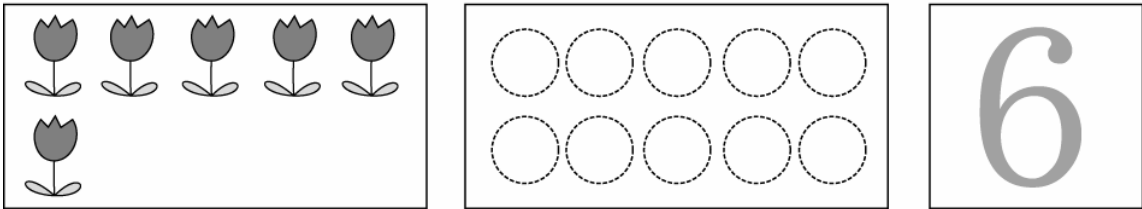


もう大きくなってしまったみなさんに、「小学1年生のときにどのような算数の勉強をしたか覚えていますか？」と聞いても、もう昔のことになりすぎて思い出せないかもしれません。

今回は、そんな初歩の初歩の算数の勉強についてふり返ってみます。

当然ですが、はじめは「かず」を勉強します。

1, 2, 3, …… , 10までの数字の書き方や読み方を学ぶのですが、ただ数を数えたり書いたりするのではなく、“数には役割がある”ことを勉強していたのです……



上の図は、「6」という数を知るための勉強です。
今となっては「チューリップが6本ある！」と言うことは簡単なことでしょう。しかし1年生では、この図を見ながら、「おなじ かずだけ に いろを めりましょう。」 「すうじを かきましょう。」の勉強をします。

ここで大切なことは、チューリップと“同じ数だけ をぬる”ことです。その理由の1つは、数えまちがえをなくするためです。もう1つの理由は、 をぬることでチューリップからはなれて、数としての6をイメージできるようにするためです。

むずかしいというと、「集合の要素(6本のチューリップ)と数詞(6)が1対1に対応」できるように工夫されているのです。

少しむずかしい話しになってしまいましたね。とはいえ、こうしてまず1から10までの数字を学びます。

このとき学んだ数は「集合数」といって、男子が6人、本が6冊、チョコが6個、…のようにものの個数を表す役割としての数なのです。数を見て“多い”“少ない”という判断ができるのは、このような考えができているからです。

では、次は何でしょう？ たし算・ひき算でしょうか？

その前にもう一つ、数には他の役割があることを勉強したはずですよ……………

「まえから 3ばんめは なんですか。」 「ぼーるは、うしろから なんばんめですか。」



前から3番目はポテトチップで、ボールは後ろから2番目ですね！

このような学習から、ものをならべると順番を考えることができ、その順番を表す役目として数が使われることを知ります。このような数を「順序数^{じゅんじょすう}」といいます。

また、このような使い方を覚えることで、ものの「位置」を表すこと、その「位置」を人に伝えることができるようになります。たとえば、「リカちゃん。まえから3番目のいすにすわってねー」「みぎから2番目のおちゃわんを使ってください」のようにです。

「まえから 3こ ぬりましょう。」と「まえから 3ばんめを ぬりましょう。」では、同じ3を使っているが、一方は「個数としての3」、もう一方は「順番としての3」と、それぞれちがうことを指しています。



小学1年生にとっては、まずはじめにそれぞれの使い方を知ることが、とても大切な勉強です。

こうして、数の役割^{やくわい}を知ってから、「たし算」「ひき算」になります。

1～10までの数でたし算とひき算をするまでが、だいたい1学期です。11以上の数を学ぶのは夏休みが終わってからです。

どうでした？ ちょっとは思い出しましたか？

